

# 今、この人に Interview

武道の教えは「自分に克つこと」。外国で生活する中でも、その国の文化を学び、合わせていく努力が大切ですね。

グラフィックデザイナー 弓道家

神利 アレサンドロさん



## ■弓道とは、いつどのように出会ったのですか。

中学生の頃から空手を習い始めたのですが、だんだんとスポーツ化しているように感じていました。私は武道の中心となっている「自分自身に克つ」ことに魅力を感じていたので、もっと武道の精神に触れられるものを探していたんです。そんなとき、オイゲン・ハイゲルというドイツ人が書いた「弓と禅」という本に出会い、弓道をやってみようと思いました。イタリアで弓道をしている人は100人ぐらいでしたね。

## ■日本に来たきっかけは？

私はもともと、病院へ先進の医療技術の導入を進める仕事をしていました。イタリアはもちろんドイツやフランスなどEU諸国のあちこちの病院を飛び回っていたんです。そんな中、2004年に一旦仕事を辞めて3か月の長期休暇を取りました。これを機会に日本に来て日本語を勉強しようと思ったのです。そして京都に行ったとき、私と同じく弓道をしていた今の妻に出会い、結婚することに決めました。そして2005年4月に再来日し、以来ずっと日本で暮らしています。

## ■これまでの仕事のキャリアやイタリアでの暮らしよりも、日本に来ることを選んだのはなぜですか？

とてもやりがいのある仕事でしたが、とても忙しくて家族を作ることを考えるような時間がありませんでした。彼女に出会ったとき、転職してドイツで働くか、それとも日本に来て家



族を作るかを考えました。そして、家族を作ることを選んだのです。でも彼女は日本語しか話せませんから、まず、私が日本語を勉強するところからスタートしました。家族や友達からは、反対されましたけどね。

## ■日本での暮らしに不自由はありましたか？

滋賀県に日本語学校がないのは残念ですね。だから最初の1年は京都に住んで、京都の日本語学校に通っていました。外国で暮らすには、その国の言葉をマスターすることがとても大事です。日本語でのコミュニケーションは不自由なく出来るようになりましたが、漢字はとても難しくハードルが高いですね。漢字の読み書きが今の課題です。

## ■弓道の稽古はどのようにされているのですか。

週に1~4回、滋賀県立武道館で稽古をしています。稽古は水のようなもので、コップが一杯にならないと次のステップに進むことができません。ですから、コンスタントに続けることが大事です。今年からはじめて、正月に京都の三十三間堂で行われる弓初めに参加し、試合もすることができました。

## ■武道の精神をきわめることは、アレサンドロさんにとってどういう意味を持っていますか。

スポーツは、相手に勝つために努力します。もし負けてしまったら、相手の方が強かった、と言い訳をすることも出来ます。でも、武道の教えることは相手に勝つことではなく、自分に克つことです。特に弓道の場合は柔道や空手と違って戦う相手がないので、まさに自分の中の努力がすべてです。失敗したら自分を責めるしかありません。弓道の場合「矢を的に当てたい」と思っているだけではだめだと指導者から教えられました。自然な形で正しく行くと、矢が「当たる」。自分の力で当てようと意識すると的を外してしまい

## ●プロフィール●

イタリア・ローマ出身、42歳。中学生の頃から空手を始める。20歳の頃、「より深く武道の道を究めたい」と、弓道を習い始め、大学卒業後も医療関係の仕事の傍ら弓道を続ける。2004年に長期休暇で初来日。このとき奈津子さんと出会い結婚を決意。2005年4月から日本に移住し一年間京都の日本語学校で勉強した後、滋賀で暮らし始める。デザイン関係の仕事の傍ら滋賀県立武道館で弓道の稽古を続け、現在錬士5段。

ます。大切なのは、自分の心をコントロールすることなのです。

## ■弓道で学んだことは、日本での生活にも活かされていますか？

そうですね。日本人はいつも親切ですが、もし他人が間違っただけでも、はっきりと指摘はしません。だから自分自身が意識して、他の人がどういうふうに行っているかを見たり、自分の振る舞いが間違っていないか質問しないと、間違っただけで過ぎてしまいます。日本人はマナーや礼儀、スタイルをととても大切にしています。それが分かっているかどうかで、日本人か外国人かの壁ができてしまいます。でも、それは日本人が子どもの頃から自然に身につけたものだから、外国人でもよく見ていればだんだんと分かってきます。そのスタイルを見付け、文化を学んで合わせていけば、壁は超えられると思っています。外国に行ってそこで暮らすためには、誰でもそういう努力が必要なんじゃないかな、と思います。

## ■国を越えて人と付き合うために、大切なことは何でしょうか。

私には3歳になる息子がいます。家ではイタリア語で話していますが、「人の心」というベースは、言葉が違っていてもみな同じです。だから人と人との違いではなく、同じところを見ることが大切だと思います。そんなことを、息子にも教えていきたいですね。